

---

# ある店の話

常盤金成

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

ある店の話

### 【Nコード】

N2471A

### 【作者名】

常盤金成

### 【あらすじ】

何故このレストランはこんなに儲かるのか。

私は、全国的にチェーン店を持つ、ある大きなレストランの営業部部長のY田K子。私の働く店は、最近までよく繁盛していた。だが最近、近くにできた一件のレストランに店の客をとられてしまっているようだ。そこで、私の出番だ。

私は謎を探るべくその店へ乗り込んだ。店内はきれいだったが、私の働いている店よりはだいぶ狭い。だが、平日の午前中の昼間なのに私の店よりも客が多く、繁盛している様だった。

入った途端に、ウェイターがやってきて

「ご予約をしておるか、お連れの方はいらっしゃいますでしょうか？」と聞いていた。

一人で来たのだから連れなどいるわけではない。当然今日、与えられた仕事なので予め予約などしているはずもなく

「いいえ。」と私は答えた。

すると、彼は言う

「すみませんが、ご予約か、お連れの方がいない場合は入店できません。」と。なんと使い勝手の悪い店だろうか。空席がいくつもあつたのに……。

日を改め、（仕方がないので）後輩のT山君について来てもらった。（二人なら入れるようだった。）

休日でカップルなども多かった。席に着きメニューを見て驚いた。私の店で売っているような物でも、高い値段がつけられていた。しかし、店を出るときT山くんが料理の代金をおごってくれた。つまりあの晩年貧乏人が、私が食べたもののお金まで出してくれたのだ、あんなに高い店で。店を出てからも、あの高い値段には納得いかなかった。

何かあるに違いないと思ったが、T山君を問い詰めても、「何もありませんよ、別に。」と言って照れるだけでまったく、話にならない。

なぜ…。

私は、核心に迫るため、友人のY子ともう一度その店に行く事にした。しかし、席が空いているのに追い返された。おそらくスパイとばれたのだらう。しかし私には、弟と妹の二人がいる。彼らに行ってもらおう事にした。二人は、こころよく（「バイト代を払う。」と言つと）引き受けてくれた。二人はすぐに真相を突き止めてくれた。

その店は、カップル専用で男の方には、普通に値段が書かれたメニューが渡される。が、女の方は倍近くの値段が書かれたメニューが渡されるのだ。これが店の魂胆だった。見栄っ張りの男は、この店に来て高い値段のものを女に買ってやるように見せる。

はじめにT山くんがばかみたいな真似をしたように見えたのも（そういえばアイツは私のメニューを見て、啞然としたあとにやけていたな）、女の私が一人で入れなかったのも、Y子と一緒にでも入れなかったのもこのためだらう。私の妹と弟が2人で入れたのは多分、よっぽど仲がいいように見えたからだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n2471a/>

---

ある店の話

2011年2月1日03時16分発行